



憲法9条の会つくば

コミュニティーニュース

2007. 9. 1 No. 17

ゆい 結

発行 「憲法9条の会つくば」

〒305-0005 つくば市天久保1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753 Fax 029-856-2286

<http://peace.arrow.jp/tsukuba/index.html>

参院選の結果をどう見ますか？！

安倍内閣が5年以内の「憲法改定」を公約のトップに掲げる中で、7月の参院選は実施されました。そこで選出された議員がこの憲法改定の発議・審議・採決に携わることになります。「憲法9条の会つくば」は、一人でも多くの「憲法9条を変えない」候補者を国会へ送るために、下表のような活動を提起し、実行しました。

選挙の結果は、ご存知のような自民党の大敗、民主党の過半数獲得となりました。憲法を守ることを前面に出した諸政党が伸びなかったことは残念ですが、安倍内閣が大打撃を受けたことにより、首相が公約の第一に掲げてきた憲法改定も、これまでのように世論におかまひなく一方的に押し進めることは当面むずかしくなったのではないのでしょうか。

選挙後の国会では、5月に強行成立された改憲手続き法（国民投票法）に沿って国会に常設される「憲法審査会」の発足に進むはずでした。その役割は、国民投票が可能になる

3年後に向けて淡々と改憲案を作り、国会の審議にかけることです。しかし、「改憲々々と言って国民生活上の問題を軽視した」と党内でも批判される安倍氏の大敗により、同じく憲法改定を掲げる民主党も含めて、「今すぐ改憲に力を入れる姿勢を見せるのはまずい」という認識が出てきたと言われています。

安倍氏は「憲法は選挙の争点にならなかったから、改憲の政策は否定されていない」などと言っていますが、少なくとも国民の関心は憲法の改定ではないことがはっきりしたと言えるでしょう。

しかし、改憲派は決してこれであきらめたわけではなく、前回総選挙のように何かの「風」が吹いてまとまった勢力ができるなど、また一気に「改憲ムード」を盛り上げるチャンスが来ることを期待し、機会をねらっていることでしょう。米国も簡単にはあきらめないでしょう。

私たちは憲法9条を支えるしっかりした世論を作り上げるために、引き続き、さらに運動を広げたいと思います。



大事な節目のとき、大きな盛り上がりをご一緒に作ってください。

憲法9条の会つくば 2周年記念のつどい のお知らせ

10月8日(月・祝) 於：カピオ ホール

詳しくは同封のチラシをご覧ください。なお、参加券2枚を同封させて頂きました。料金は「つどい」当日会場にて精算とさせて頂きます。(料金のご確認は4面、前号とともにお配りしたチラシについてのお詫びも)

また、宣伝チラシ・チケットをさらに扱ってくださる方は、会事務局までご連絡ください。

カピオホールがあられる参加者で、「つどい」が成功するように ご協力をお願いします。

賛同人 603名 (市内468名)

8月24日現在

9条署名 累計4,284筆

8月9日現在

活動予定

9月2日(日)・10月7日(日) 定例街頭署名活動

11時半～ 中央公園アルス図書館前集合

10月8日(月・祝) 会設立2周年記念のつどい

参院選まえ、臨時街頭署名でのふれあい～

参院選で多くの方に「憲法9条を変えない」候補者に投票していただけるようにと、いつものアルス前で臨時の街頭署名を行いました(7/22)。まだ梅雨でしたが幸い雨も降らず、元気に「憲法9条を守ろう」と訴えました。行動参加者5名でオリジナルチラシを約200枚配布、「憲法9条を変えないことを求める署名」は63筆でした。

いつものように、戦争経験者から小学生、それに中国からの留学生と幅広く、いろいろの方と対話をしました。18歳で終戦を迎えられたという女性は、遺族がいる限りあの戦争は終わっていない、それなのにまた危うい雰囲気、悲しいですと戦後も苦しんだご家族のことを話して下さいました。小学生の兄弟は、「俺、知ってる。安倍総理は憲法変えると言ってる。それも戦争しないって決めた所を変えるんだって」、「それで署名ってなんですか?」と納得して署名しました。他にも美しく化粧をした若い二人の女性や大学生のカップルなどと対話をしました。また中国の留学生家族も「日本が憲法9条を変えるなんて認められない」と驚いていました。

選挙の結果は民主党の大勝でした。民主党は「創憲」と言って「9条を改悪する憲法案」を発表しています。参院選中は「9条を守る」と言う候補者がいるなど選挙向けの顔がめだっていました。「9条を守る」と言って当選した議員には、その約束を守ってもらいましょう。私たちは、彼らが約束を堅持するよう引き続き働きかけていきたいと思います(担当:伊藤清子)

8月25日、戦争の頃のお話を伺う夕べ

上広岡地域に住む本会有志の呼びかけたついで、野田団地の80代と70代後半のご夫婦のお話を伺いました。小学6年生から86歳の方まで18人が参加しました。ご夫婦が、それぞれ熊本と長野で体験された戦争と、戦後の東京での体験を語って下さいました。空襲や機銃掃射の怖さ、栄養失調で顔が膨れて亡くなった人のこと、勤労動員や農家支援で女性や子どもが犠牲になる戦争のむごさ、学校の指示でさせられた桑の繊維とりやどんぐり集め、先生は次々兵役に去る一方、疎開児童ですすめになっていく教室、そして終戦の年に40代で見送りもされず召集されていったお父さんのことなど。他の参加者からも、戦争体験や戦後の悲惨なお話が出されました。聞いていた小学生、中学生は、食糧難の話がとても印象に残ったようです。また、戦後世代の方たちからは、親たちが何を伝えなかったのか改めて考える機会となった、と感想が寄せられました。「息子にも話していなかった」つらい思い出を話して下さったご夫婦に感謝します。これからも身近な方々の戦争体験を共通の土台に、平和の問題や憲法のことを考え、気軽に話し合える機会を、と考えています。(阿部きよ子)



8月9日 長崎・原水爆禁止2007年世界大会に参加して

市民会館は全国からの代表団や、外国からの代表団でいっぱいでした。僕は全国や外国の人まで核兵器を無くすために運動していることがわかり、すごいなと思いました。その人達を見て、僕も将来核兵器をなくす運動に参加したいと思いました。

原爆資料館にはボロ布ようになった洋服や、血の染みだズボン、原子爆弾の模型などが置いてあり、その爆弾の名が「ファットマン」(ふとっちょ)で、原爆を受けた人は地獄のような思いをしたのにふざけた名前で日本人を馬鹿にしていると思いました。(中1 稲葉結志)

長崎も猛暑でした。原水禁世界大会に参加して感動と将来への展望を沢山もらいました。

①高校生や20代の若者のはつらつとした姿に、未来への展望を感じました。「世の中のこともろくに知らないのに、こんなこと(署名やチラシ配りなど)して何になるんだ」という心無い大人にもめげず、真っ直ぐ前を見つめて進む若さに、運動の原点を見る気がしました。もっと若者を信頼して、いろんなところでいろんな方法で訴えていく必要がある、それは私たち大人側の工夫の問題だと思います。若者は確かな感性をもっています。

②被爆62年目にして体験を語ってくれた方の話を聞きました。なぜ今まで語らなかったか。一つには、父が亡くなる前に「原爆のことは言うな」といったこと。家族を奪った米軍への彼の憎しみの強さに、父は彼が人間不信に育つことを心配した。もう一つは、父と出会うまでの3日間、8歳の彼が一人で生き延びるため、死んだ人のぼろきれを足に巻き、死んだ人が持っていた食べ物をとって食べた。彼はそれを恥じ、「自分は生き残ってよかったのか」と罪の意識にさいなまれていたこと・・・それで今まで語れなかった。いじめられて不登校になった子が「私が悪いからこうなった」と自分を責めるのと重なって見えました。私は彼の手をとり、「あなたはちっとも悪くない。そういう地獄を作った人が悪いんです。死んだ人はいくら無念でもしゃべれない。その人たちの分まで、生きて生きて沢山のの人に伝えてください」と必死で訴えました。(稲葉 教子)

～ 多くの人に憲法 9 条をアピールするために～

荒牧 信允

署名活動の場で署名を呼びかけられた人たちの対応は様々であるが、避けるように去って行く人がとても多いのは残念である。

この人たちの多くは憲法に無関心で、改定されることの重大さを理解していないのであろうと思う。このような護憲活動をしているのは特別の人たちで、自分達とは違う世界にいる、という目で見ているのかも知れない。だから、憲法9条が改悪されると戦争に巻き込まれることになる、など言われても頭に入らないのだろう。母親大会に参加した高校生も「若い人に広まる政治・平和の話を敬遠する雰囲気」を感じている（“結” No.16 への投稿）。

そこで、9条の会広報活動に際してひと工夫してみることが提案したい。

「憲法 9 条はわれら日本の強力なパワーだ」

一つは「憲法9条はわれら日本の強力なパワーだ」というキャッチフレーズを使おうということである。

最近、ソフトパワーという言葉をよく目にする。これは10数年前にハーバード大学のジョセフ・ナイ教授が提唱した概念で、国家の軍事力や経済力をハードパワーとし、それに相対するものとしてソフトパワーとしたのだそうである。具体的には彼は、国の文化、政治的な理想、政策の魅力をその主なものとして挙げている。

そして彼は、国家が国際社会に影響を与え、リードするには、ハードパワーではなくソフトパワーによるべきだと説いている。それが国際社会から尊敬され、名誉ある地位を獲得できる道であるという。アフガニスタンとイラクを武力攻撃したブッシュはまさにハードパワーに頼ったわけで、そのため世界のアメリカへの信頼はすっかり失墜してしまった、と彼は嘆いている。

思うに、我が憲法9条は類ないソフトパワーではないだろうか。みすみす捨てるのは勿体無いし、ばかげたことである。日本が国際社会をリードするには、日本にしかないこのソフトパワーを使うのが最も賢いやり方である。最も効果的である。ソフトパワーの行使は決して敵をつくらない。

九条の会の活動に際して「日本の誇り」や「世界の宝」という表現がみられるが、これに加えて、「憲法9条は……パワーだ」という表現を使ったらどうだろうか。9条を「パ

ワー」とか「力」という表現でアピールすることは、多くの人に強いインパクトを与えることになるのではないだろうか。特に、若者に……。

「自民党をぶっ壊す」や「反対する者は抵抗勢力だ」などのワンフレーズが小泉さんの支持を広げたことは記憶に新しい。

“結”には「……平和を守る大きなパワー」という表現がある。これも良いが、更に攻めるためのパワー、という方向に持っていきたいものである。

「憲法 9 条で安全を安く買える」

そしてもう一つ、9条を「得だ」とか「安くつく」など、損得の考えにより多くの人の耳目を惹きつける方法はいかがであろうか。

隣国の中国を例にとって考えてみたい。

日本の '06 年度の防衛予算は約5兆円。対して中国は中国政府の発表で351 億ドル(当時のレートを1ドル110円として4兆円弱)。実際は1200億ドルに達するとの観測もあるが、それはさて置き、日本が額の上では少し上回っている。しかし、中国の人口は日本の10倍である。このまま成長を続けて一人当たり生産性が仮に日本と同じ程度になり、それに伴い国家予算も日本の10倍の規模になったとする。そして、中国が国家予算の5%を軍事費に当てるとして(現在は7.4%だという)、日本がそれに対抗して同等の軍事力を保持するためには、国家予算の半分を当てなければならない。中国が10%なら、日本は全額ということになる。

仮定の上での計算であるが、軍拡競争というのはこのような危険をはらんでいると思うべきである。

憲法9条というソフトパワーを使った方が格安で安全を手に入れることが出来るよ、という理屈である。これは理屈とか理想というよりは、むしろ現実的だと思う。

「日本の誇り」、「世界の宝」などの表現や「子どもたちを戦争に行かせないために」、「平和を守るために」などの呼びかけは、いわば正攻法である。

対して、「パワーだ」とか「安くつく」などは邪道なのかも知れない。しかし、正攻法のみでは戦(いくさ)に勝てない場合もある。同時に搦め手から攻めるのも必要ではないだろうか。

皆様のご意見を伺いたいと思います。



戦争を想う 平和を想う

山崎 敏子 (土浦市在住)

～ 姫路空襲 ～

昭和20年6月22日、空襲警報とともに川西軍需工場爆撃があった。B29の編隊約60機が約一時間にわたる波状攻撃を仕掛け、爆撃当時は社員、動員学徒、徴用工など多くの従業員がおり、製作所は全滅の被害を受け、周辺でも民家や道路が破壊され、周辺住民を巻き込んだ人的被害は、死者341名、重軽傷者350名に上った。

その時、私は市役所の地下室に避難していて、腰が抜けるほどの轟音と地響きに一時気を失っていたが、数分して地上に出たら、死体がトラックで山のように積まれて運ばれてきたのが今でも目の前に浮かぶ。

翌日、グラマン戦闘機が1機飛んできて、急に機銃掃射をはじめた。身を隠すところがなく、近くの外堀の石垣にしかみついていたが、ふと見上げると操縦しているアメリカ兵の帽子と眼鏡、機関銃が目の前にあった。しかし不思議に自分には命があった。今でも昨日のこのように思い出して忘れられない。

同年7月3日～4日にかけて姫路は2度目の空襲に襲われた。17歳の私、15歳の弟と父と3人は家に残り、母と他の兄弟4人は田舎に疎開していた。警報とともに姫路の空一面が急に真っ赤になり、その明るさの中敵のB29が飛来してきたと思うと、間をおかず、黒ゴマをまいたよ

うな黒い雨のようなものが降ってきた。“早くはやく！”と、弟と裏の防空壕に飛び込んだがその瞬間、バラバラと近くに焼夷弾が落ちてきた。そして火を噴き始めたので弟は防空壕から飛び出し、大きなスコップで火の噴き始めた筒を叩きだした。私も一緒になって夢中になって叩いた。あっちにもこっちにも燃え始めており、追いつきそうになかったが何とか頑張って消すことができた。近くににあった2階建ての大きな家3軒がゴォーゴォーと燃え始め、ものすごい勢いでたちまち火の海の中で崩れ消えていった。

さっきまでの緊張が呆然に変わり心が震えた。恐ろしかった。60年たって郷里に帰ってみても、その家3軒は建築されないままだ。心安くしていたあの人たちは何処へ行ってしまったのだろうか・・・今でも、あの時の光景がありありと目に焼きついて離れない。

終戦後入学した広島の子高等師範学校では、親しくして頂いた先輩から原爆投下の時のあまりに惨い様子を聞くにつれ、私の身体にその悲壮な様が焼きつけられた。

戦争は、どんなことがあっても世界から失くさなければならぬと思う。

様々な体験や想いを話しておきたいという気持ちが、最近強くなっている。

2007.8.15 記

憲法9条の会つば 2周年記念のつどい

10月8日(月・祝) 於:カピオ ホール

参加券の料金について

「日本の青空」を茨城映画センターの協力によりご鑑賞いただくため、下記の料金とさせていただきます。

一般 ¥1200(当日¥1500) 60歳以上シニア ¥1000
学生・障害者手帳をお持ちの方 ¥500 中学生以下 無料

おわび

早期に作成したチラシでは一部料金に誤記がありました。お詫び申し上げます。

本会の活動のための資金カンパ ありがとうございます。

引き続きよろしくお願いします。

「結」を含む会の宣伝物や通信費は賛同者の皆様のご協力により支えられています。

郵便振込み口座:番号 00100-3-742235

加入者名:憲法9条の会つば

編集後記

今年8月の異常な暑さで参りましたが、もうすぐ「芸術の秋」の到来ですね。

音楽で平和を訴えるイベントも目白押しですが、毎年9月には「セブテンバーコンサート」という世界的な催しがあります。9・11のテロを契機に、音楽家が平和を訴えて行こうと毎年この時期に世界の各地でコンサートが行われます。

日本でも今年は9/9に各地で行われ、茨城では日立がサテライト会場となっていて、私もコスベルで参加します。11月には奈良で「日本のうたこえ祭典」が行われます。

音楽には人に何かを訴えかける大きな力があります。(と信じて活動しています！)

皆さんも、この秋、ぜひこういうイベントに参加してみたいかがでしょうか？

(堀部一寿)